

番号	12	令和4年度公共事業再評価調査				担当課名 河川海岸整備課	
事業名	河川改修事業			事業主体	静岡県		
箇所名	にきぬみせん はぎまがわ 二級河川 萩間川			関係市町村	牧之原市		
事業採択年度	平成 24 年度		計画期間	平成24年度 ~ 令和15年度			
用地着手年度	平成 24 年度		工事着手年度	平成 24 年度			
再評価理由※	再評価実施(H29)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円 2,948	投資状況 (百万円)	~R2年度 1,678	R3年度 0	R4年度見込 50	計 1,728	
事業概要	<p>(1)事業目的 近年被害を受けた主要洪水(昭和57年9月、平成2年9月、平成16年10月の3洪水)の降雨規模を包括する概ね8年に1回発生する降雨(時間雨量57.1mm)による洪水を河道内で安全に流下させることを目指し、溢水・破堤などによる浸水被害解消を図る。</p> <p>(2)事業内容 ・河川改修 : 延長 2.10km (河道拡幅)</p>						
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 近年、気候変動に伴う豪雨の激甚化、頻発化により全国各地で甚大な被害が発生している。こうした水災害リスクの高まりから、流域のあらゆる関係者の参画によって、流域全体で被害を軽減させる「流域治水」に取り組む重要性が国から示され、県内でも「流域治水」の考え方に基づく取組みを推進している。</p> <p>(2)事業の投資効果 ○現時点(R4)での費用便益分析結果 : B/C=4.6、EIRR=22.0% ・総便益(B) : 5,277百万円 ・総費用(C) : 1,151百万円 ○見込まれる効果 ・8年に1回程度発生すると想定される規模の降雨による浸水被害の解消</p> <p>(3)事業の進捗状況(令和4年度末見込み) 【事業費】 58.6% (1,728百万円/2,948百万円) 【事業量】 57.1% (1,200m/2,100m) 整備対象区間 2.1kmのうち、下流側 1.2kmについては河道拡幅が完了した。上流側については、現在、東中橋の架け替え及び樋門工等に伴う用地買収に向けた測量作業を進めており、令和6年度からの橋梁工の着手に向け、地元や関係機関との調整を進めている</p>						
事業の必要性	<p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点2】	<p>東中橋の架け替えを含めた上流区間の整備について、地元理解が得られていることに加えて、令和7年度までの国の国土強靱化予算を活用することにより、順調な事業進捗が見込まれる。</p>						
今後の事業の進捗の見込み	<p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点3】	<p>(新たなコスト縮減について) 掘削による発生残土を養浜材や海岸の津波対策等の他事業に流用して残土の有効性を図るとともに、地域住民との協働による維持・管理コスト等の縮減に努める。</p>						
新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性							
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を( <input checked="" type="radio"/> 継続 ) ・ 見直し後継続 ・ 中止 ) する。</p> <p>(2)理由 本事業は、河川改修により萩間川流域の家屋浸水被害を軽減するものである。当地域では、近年、激甚化・頻発化する豪雨を受け、度々浸水被害が発生していることから、地元の治水安全度向上への期待が大きく、事業の投資効果も見込まれるなど、今後の事業の進捗が見込めることから事業を継続する。</p>						

## 費用対効果算出説明書

### 二級河川萩間川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省水管理・国土保全局 令和2年4月)

#### 総括表

総便益 B	[治水事業を実施しない場合の被害額]－[治水事業を実施した場合の被害額]+[施設の残存価値] ※ 現在価値化後	5,277百万円
総費用 C	[建設費]+[評価期間内に必要な維持管理費] ※ 現在価値化後	1,151百万円
B/C		4.58

#### 総便益

○治水事業の有無による被害額の差分  
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間62年(整備期間12年+50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値  
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned}
 B &= \sum \text{年平均被害軽減期待額} + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n \\
 &= 5,256\text{百万円} + 21\text{百万円} \\
 &= 5,277\text{百万円}
 \end{aligned}$$

※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

#### 総費用

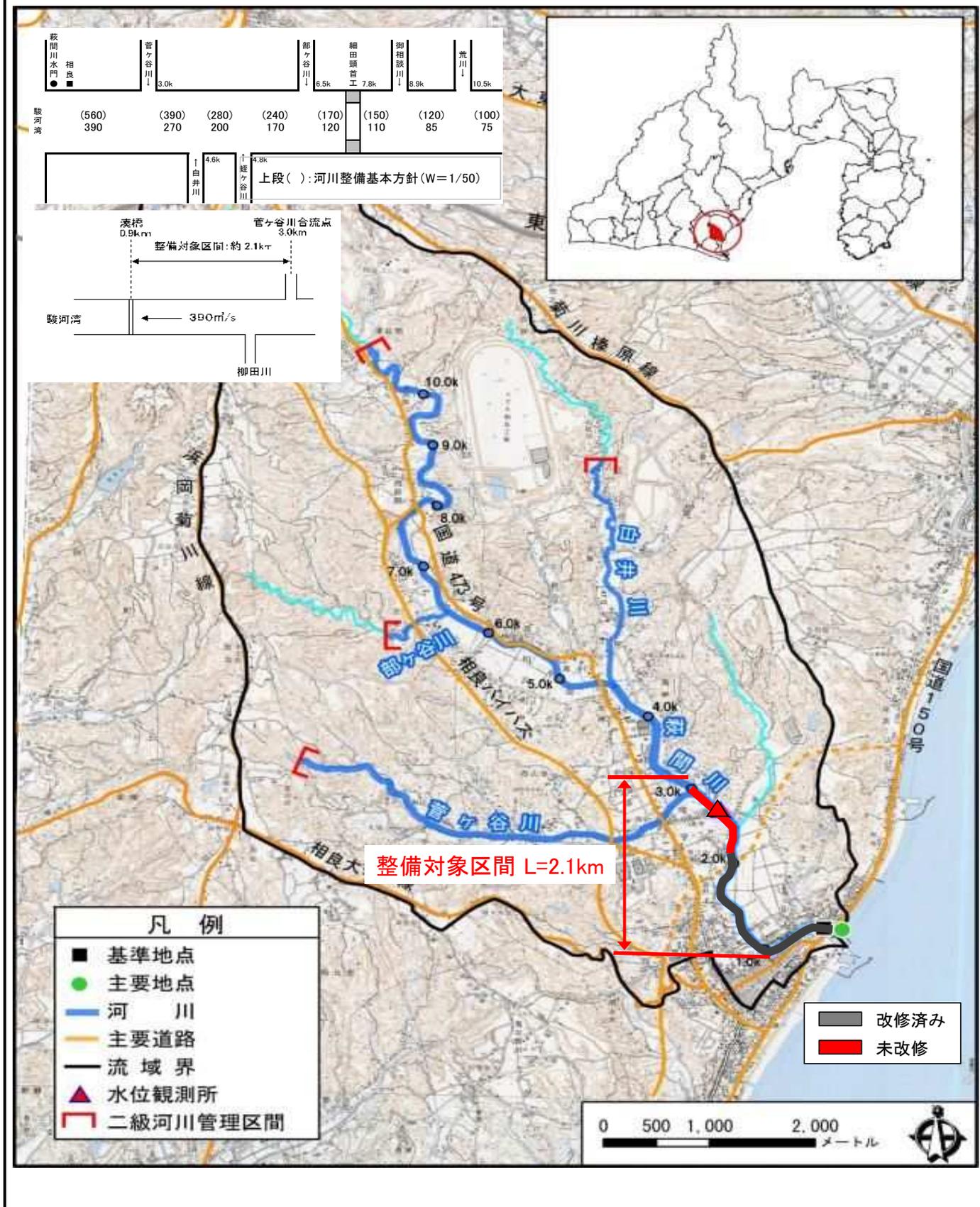
○事業建設費  
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費  
各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。  
建設費の0.5%/年、評価対象期間：62年

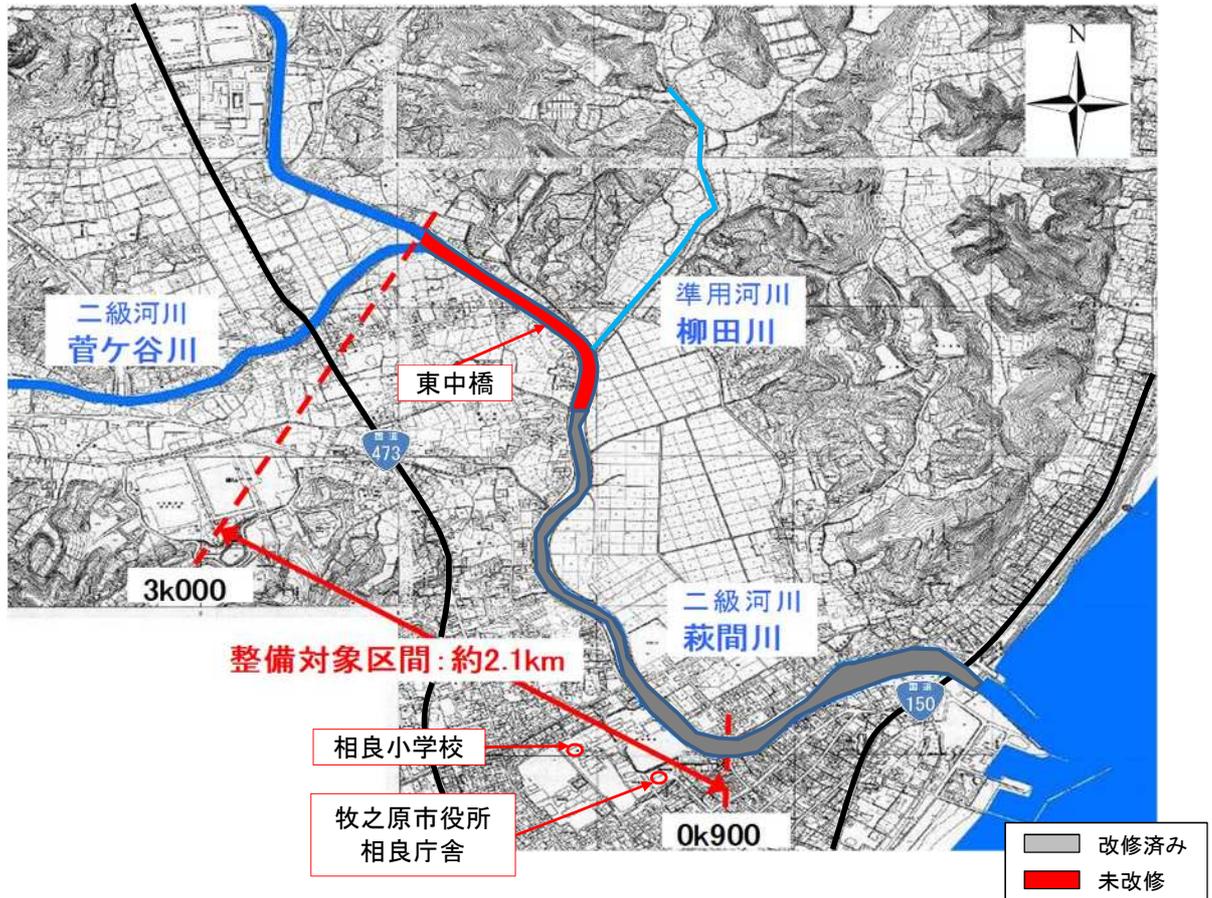
総費用

$$\begin{aligned}
 C &= \sum \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\
 &= 1,036\text{百万円} + 115\text{百万円} \\
 &= 1,151\text{百万円}
 \end{aligned}$$

# 萩間川 位置図

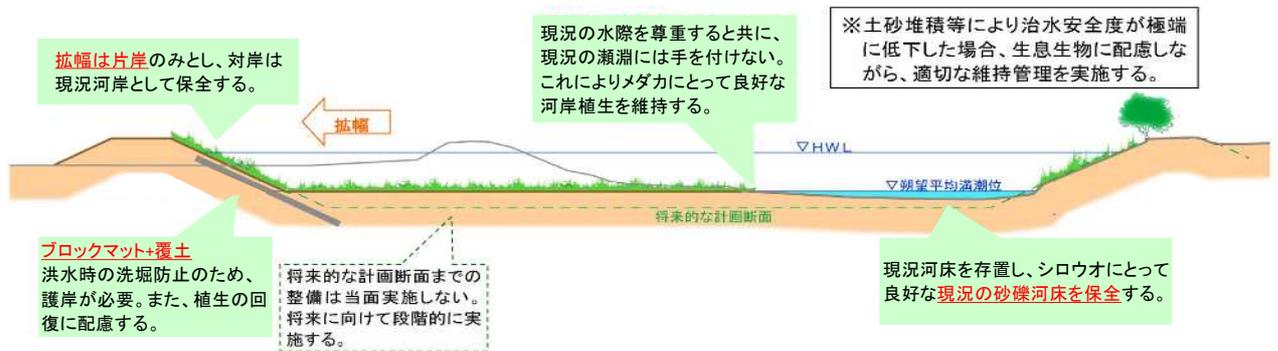


## 概略平面図

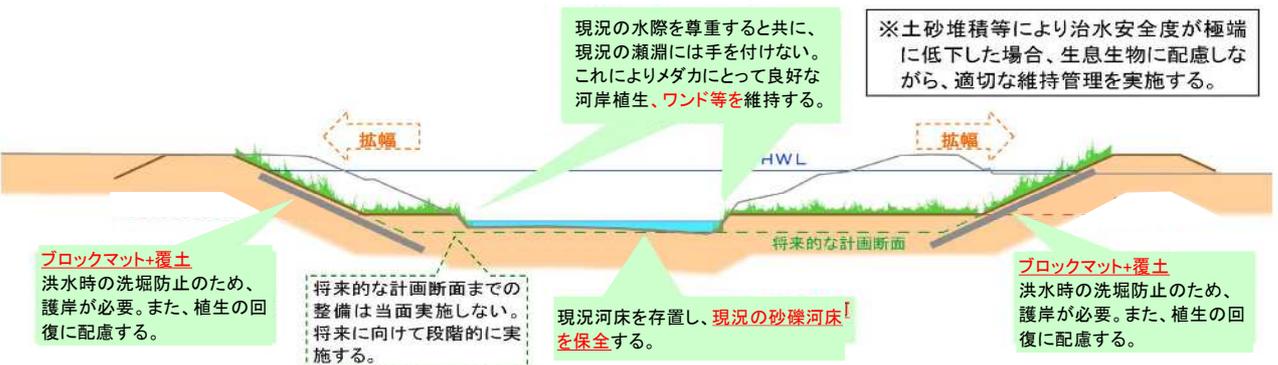


## 標準横断面図

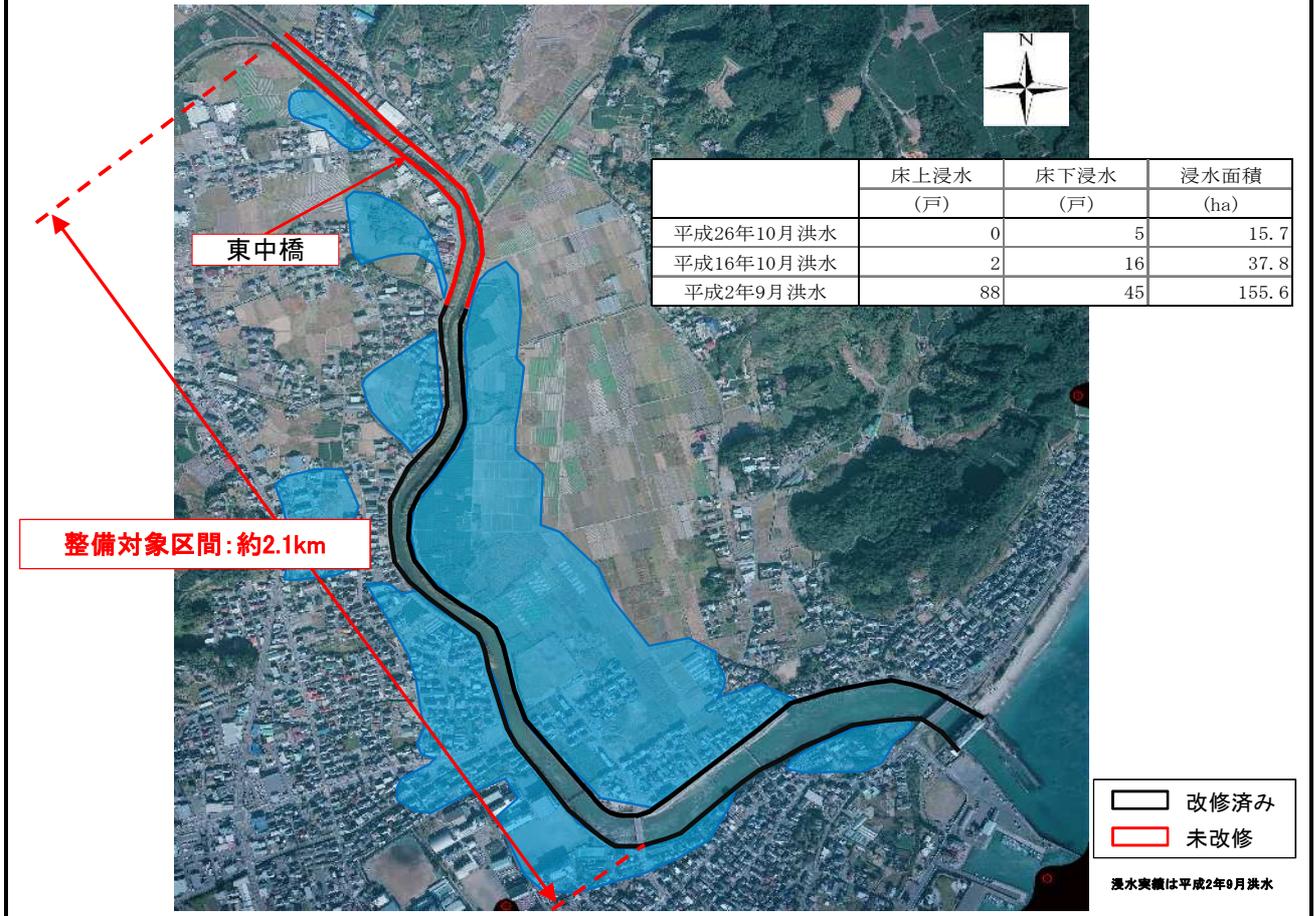
0k900～2k400



2k400～3K000



## 航空写真



## 浸水被害の状況



平成2年9月洪水 大江・大沢地区（新橋付近）

## 改修区間の状況

湊橋より下流側：河口から1.0km付近



湊橋より上流側：河口から1.0km付近



## 未改修区間の状況

東中橋より上流：河口から2.7km付近



河口から2.2km付近



河口から1.6km付近

